

# 奈良時代への誘い<sup>いざな</sup>



西本 和弘

NISHIMOTO Kazuhiro

NTTインフラネット(株)  
設備本部設備マネジメント部  
アーバンデザインセンタ技術担当担当課長  
(本誌編集委員)

『奈良県への誘い』ではなく『奈良時代への誘い』とはどういう意味か？ 簡単に書くと、奈良県の特定エリアでは、おそらくほぼ奈良時代と変わらない景色を見ることができ、当時の雰囲気を感じることができるということである。

例えば京都の宇治平等院鳳凰堂や金閣も、その建造物だけを見れば平安時代や室町時代を感じることができると思うが、特定エリアとなると自然豊かな場所を除いてはそれほどないと思われる。本稿では、奈良市の特定エリアで奈良時代を感じることができる場所を、想像、妄想を膨らませながら、小ネタもはさみながら書いてみようと思う。

奈良県は2021年度都道府県魅力度ランキングで9位であり、例年10位以内にはランキングされるものの、修学旅行でしか行ったことのない人が多いことだろう。世界遺産が2つ（法隆寺地域の仏教建造物と、古都奈良の文化財）あるものの、どちらも神社仏閣を中心とした場所なので、その方面に興味のない人にとってはそれほど行きたい場所ではないかもしれないが、興味のある人にとっては、これほど魅力的な都道府県もないのではないと思われる。私もその一人である。なお、私は奈良県出身なので、幼少の頃から時間があると、よく奈良市周辺の神社仏閣をぶらぶらしていた。

まずは平城京。平城京は和銅3年（710年）に藤

原京から遷都され、794年に平安京に遷都されるまでの約74年間、奈良時代の都だった。小学生の時の授業で、なんと（710）大きな平城京、なんとびっくり平城京、南都ステキな平城京。鳴くよ（794）ウグイス平安京。と習いましたよね。

今は平城京跡歴史公園として復元されつつあるが、1300年前もおそらくこのような景色だったと思われる。私が幼少の頃には、平城京跡にはこの写真の大極殿はなく、ほぼ芝生のみで、周囲に高い建物は全くなく（今もないが）、360度見渡しても遠くに山が見えただけだった。若草山から昇る朝日や生駒山（大阪府と奈良県の県境の山）に沈む夕日を見ると、おそらく奈良時代の人も同じ太陽を見ていたんだろうな～と思ったものである。

次に興福寺。阿修羅像で有名な興福寺は藤原氏の氏寺であり、天智天皇8年（669年）に創建された山階寺（京都市山科区）が起源であり、天武天皇元年（672年）に藤原京に移り、その後、和銅3年（710年）の平城京への遷都に際し現在地に移転し、興福寺と名付けられた。すなわち、和銅3年（710年）には、平城京と興福寺はすでに今の場所にあったことになる。

次に東大寺。大仏で有名な東大寺は天平5年（733年）に若草山麓に創建された金鐘寺が起源とされている。大仏の鑄造が始まったのが天平19年（747



平城京



興福寺



東大寺



春日大社

年)で、この頃から東大寺の寺号が用いられるようになったようである。そして、天平勝宝4年(752年)に完成し、大仏開眼会かいげんえが挙行された。なお、大仏の鼻の穴の大きさは、縦37cm、横30cm。人が入れる大きさです。覚えておきましょう。

そして最後に春日大社。春日大社は平城京の守護のために創建された神社で、藤原氏の氏神として有名である。社伝によると、神護景雲2年(768年)に鹿島神宮タケミカヅチノミコト(茨城県、常陸国一宮)の武甕槌命と香取神宮フツスミノミコト(千葉県、下総国一宮)の経津主命と、枚岡神社アメノコヤネノミコト(大阪府、河内国一宮)の天兒屋根命と比売神の四殿の社殿を造営したのが始まりと言われている。幼少の頃は、春日大社は他の神社に比べて4倍の神様がいるので、大いにご利益があると聞かされたものだ。

主祭神の武甕槌命が鹿島神宮から白鹿に乗ってきたとされることから、鹿を神使としている。奈良公園周辺には鹿がたくさんいるが、鹿は神様の乗り物なので、非常に大切にされている。『奈良なら鹿しかいない。』といったダジャレを言っている場合ではない。まして、鹿せんべいに近づいてくる鹿を『叱ってはいけない。』私が小学生の頃は、鹿は鹿せんべいに見向きもせず、ナイロン袋が好物でした。鹿にとっては不味かったようです。小学生にとってはそれほど不味くはないと、実際に食べた友達が言っていたが、良い子は真似しないように。もちろん大人も。

当然、鹿島神宮にも鹿はいるが一度途絶えたらしく、昭和32年(1957年)に奈良と神田神社から送られたそうだ。

この鹿島神宮にはもともとたくさんの鹿がいたから鹿島という名称になったのか? とか、この鹿島神社の鹿のご先祖様に白鹿がいたのだろうか? とか、どのようにして奈良までたどり着いたのか?

陸路か海路か? 道はあるのか船はあるのか? とか、例えば江戸川区の鹿骨鹿島神社を始め、東海道を三重県の名張まで白鹿の言い伝えが残っているそうだが、実際はどうだったのか? と、妄想は止まらない。

このように、春日大社ができた768年には、興福寺、東大寺、春日大社がほぼ完成しており、現在の奈良公園の範囲をほぼカバーしている。現在のようきれいに整備はされていないかもしれないが、信号や自動車や舗装道路がない以外は、かなり現在と近い状態にあるのではないかと。奈良時代以降、奈良(大和国)は歴史の表舞台からはほぼ消え、南北朝時代の南朝は奈良県中南部の吉野だし、戦国時代に松永久秀や筒井順慶が有名ではあるものの、大和国の守護は興福寺が務めていたので、現在の奈良公園周辺は、奈良時代以降は大きな変化がなかったのかもしれないとも想像できる。つまり、奈良公園をぶらぶらするだけで、奈良時代の雰囲気を感じることができる。目をつぶって、風を感じ、頭の中でちょっと妄想するだけで、そこは奈良時代の奈良(大和国)になる。ん〜、楽しい。

今回は紙面の都合上、平城京、興福寺、東大寺、春日大社に絞って書いたが、奈良市にはまだ唐招提寺や薬師寺もあり、その周辺も奈良時代を感じることができ、お勧めである。また、奈良県明日香村や法隆寺周辺では飛鳥時代を感じられるし、三輪山麓(卑弥呼の墓と言われている箸墓古墳等)では弥生時代や古墳時代を感じられる。世間的にはあまり有名ではないが、奈良県には実はいろいろなエピソードのある神社仏閣も多い。歴史を感じる旅行をするとなますます旅行が楽しくなると思うので、このようなタイムスリップの体験を求めて、ぜひ奈良にお越しくださいませ。Welcome to Nara! Welcome to Nara Era !!!